

# 障がい者虐待防止研修

～障がい者虐待・身体拘束の基本的理解と  
不適切ケアについて～

東洋大学社会学部 高山直樹

カレル・ヴァン・ウォルフレン著、篠原勝訳

『人間を幸福にしない日本というシステム』毎日新聞社、1994年、25～26頁

『日本の市民はたいてい、何かにつけ、このリアリティにはまり込んで動けなくなっていると感じている。表向きのリアリティが、管理されたつくりものに過ぎない、と時々気づくが、結局はそれを受け入れざるをえない。なぜなら、周りの世界はすべてそれによって動いているからだ。日本人がこうした状況にはまりこんだ時、口をついて出るセリフが「シカタガナイ」である。「シカタガナイ」というのは、ある政治的主張の表明だ。おそらくほとんどの日本人はこんなふう考えたことはないだろう。しかし、この言葉の使われ方には、確かに重大な政治的意味がある。シカタガナイと言うたびに、あなたは、あなたが口にしていてる変革の試みは何であれすべて失敗に終わる、と言っている。つまりあなたは、変革をもたらそうとする試みはいっさい実を結ばないと考えたほうがいいと、他人に勧めている。「この状況は正しくない、しかし受け入れざるをえない」と思うたびに「シカタガナイ」と言う人は、政治的な無力感を社会に広めていることになる』 ⇒ 『そうはいっても』

# 「しかたがない」

- ・ マンパワーが足りないから
- ・ 社会資源が足りないから
- ・ 障がいが重いから、高齢だから
- ・ 老朽化しているから
- ・ 法律や制度で決まっているから

バーンアウト  
ストレス・退職

利用者の力を奪う  
職員の喜びを奪う  
組織の改革を奪う

事故

職員間に信頼  
がない・人が  
集まらない

虐待

# 津久井やまゆり園の事件

- 2016年7月26日午前2時頃、神奈川県指定管理施設である津久井やまゆり園において、同園の元職員が施設のガラスを割って侵入し、施設の利用者男女が刺され、男女19人が死亡、男女27人が負傷した。

「意思疎通のできない人を刃物で刺した」

「重複障害者は生きていくのは不幸だ」

「**生産**に携われないことは生きる**価値**がない」

「抹殺することが救済」

「施設に勤めなければ思いつかなかったと思います。彼らと接する中で、徐々に必要ないと思っていきました。」

令和元年度 都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応状況等(調査結果)

○平成24年10月1日に障害者虐待防止法施行(養護者、施設等職員、使用者による虐待)  
→平成31年4月1日～令和2年3月31日までの1年間における養護者、施設職員等による虐待の状況について、都道府県経由で調査を実施。

	養護者による 障害者虐待	障害者福祉施設従事者等 による障害者虐待	使用者による障害者虐待		
			591件 (641件)	(参考)都道府県労働局の対応	
市区町村等への 相談・通報件数	5,758件 (5,331件)	2,761件 (2,605件)		虐待が 認められた 事業所数	535事業所 (541事業所)
市区町村等による 虐待判断件数	1,655件 (1,612件)	533件 (592件)			
被虐待者数	1,664人 (1,626人)	734人 (777人)		被虐待者数	771人 (900人)

【調査結果(全体像)】

(注1) 上記は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までに虐待と判断された事例を集計したもの。


カッコ内については、前回調査(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)のもの。

(注2) 都道府県労働局の対応については、令和元年8月28日雇用環境・均等局総務課労働紛争処理業務室のデータを引用。(「虐待判断件数」は「虐待が認められた事業所数」と同義。)

# 虐待や権利侵害に対しての表明

## どうして？（当事者からの声）

- どうして、かってに私のことをきめるの？
- どうして、子どものようにあつかうの？
- どうして、話をちゃんと聞いてくれないの？
- どうして、上から目線になるの？
- どうして、この仕事を選んだの？



意思を  
尊重して  
ほしい！

- 「ぼくたち、わたしたちは、職員がすること、思うことを見てどうするか考える。職員はちゃんとしてほしい、混乱するようなことはしないでほしい」『人間としての尊厳・5章（4）』

（1985）スウェーデン社会保険庁

# 優生思想・差別・偏見の曖昧さ

- 人間の価値や生命を生産性や社会的コストの物差しで選別する思想である。
- しかし、このような考えに対して、「それは間違っている」と私たちは本当に主張できているのだろうか。
- 自らも社会の空気も、程度の差こそあれ、生産性や社会的コストという物差しの影響を受けていることは薄々わかっていて、このことを深く洞察することを「しかたがない」として回避しているような不全感を打ち消すことができない。

**私のなかに、私の組織に、  
「内なる差別」はないのか？**

**障がいのある人、高齢者、患者を対等の人間  
としてとらえているのか？**

**「効率・生産」に重きをおき、  
「共生」を後回しにしているか？  
皆さんが考える「生産」とは何か？**



# 皆さんが選んだ仕事の意味・意義

- ・ ヒューマンサービスは、人間が人間を支えていく
- ・ ヒューマンサービスは、人格を通して**価値・倫理**を基盤とした知識・技術が提供される
- ・ 価値・倫理を基盤にした支援を個人・チーム・組織レベルで説明できるか

家族に子どもにこの仕事の意義を伝えられるか

# なぜ虐待は許されないのか、以下のことを 自分がやられたら、どんな気持ち？

- 例 1 : 自分のお金が、無断で使われた
- 例 2 : 決まりを守らなかったで顔を殴られた
- 例 3 : トイレの入り口がカーテン
- 例 4 : みんなの前で罵倒された
- 例 5 : 風邪で寝込んでいたのに周りの人が誰も面倒をみてくれなかった
- 例 6 : 何かを伝えようとするのに、無視された

誰でもやられたら肉体的、精神的な苦痛を感じる。虐待は、その極端な例である。**心の傷は治らない。**

# 虐待：「むごい扱い」

- Abuse：誤用、濫用、ののしる、悪態をつく
- 腕力、知力、社会力、武力、権力を持つ者がその力を誤用したために起こる事柄をさす
- 保護・監督すべき権限や責務のある立場の人から、その力を濫用した不適切な対応
- 愛される存在の人から、専門的支援を提供する人から受ける「むごい扱い」
- 児童虐待、暴力、いじめ、体罰、ドメスティックバイオレンス、ハラスメント
- 自然破壊、動物虐待 ⇒ 声なき声を聴く

# 体罰教員6.751人（2012年度調査）

- 桑田真澄、早稲田大学大学院修士論文、体罰調査
  - プロ野球選手と東京六大学野球部員の550名調査
  - 体罰を指導者から受けた：中学45%、高校46%
  - 体罰を先輩から受けた：中学36%、高校51%
  - 体罰は必要、ときとして必要：83%
- 
- 私は、体罰は必要ないと考えています。「絶対に仕返しをされない」という上下関係の構図で起きるのが体罰です。
  - 体罰を受けた子は、「何をしたら殴られないで済むだろう」という思考に陥ります。

# 暴力の原因って何か

- 怒りがたまっていくのが暴力の原因
- ストレスがたまっていくのが暴力の原因
- 管理運営の問題

怒りやストレスがたまって、  
暴力を振るわない人はたくさんいる  
「暴力をふるっていい」と思っている  
ことが暴力の原因

## 虐待関連法

- 児童虐待の防止等に関する法律（２０００）
- 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（２００６）
- 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（２０１２）
- DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（２００１）
- いじめ防止対策推進法（２０１３）

# 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（2012・10・1）

- 障害者に対する虐待が障害者の**尊厳**を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重要であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。 ⇒ **人間の尊厳を護る**

# 「障害者および虐待」の定義

- 「身体障害、知的障害、精神障害その他心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」障害者手帳を取得していない場合も含まれる。18歳未満の者も含まれる。
- 障害者虐待（第2条第2項）：
  - 養護者による障害者虐待
  - 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待
  - 使用者による障害者虐待
- 虐待行為の禁止（第3条）：「何人も、障害者に対し、虐待をしてはならない。」



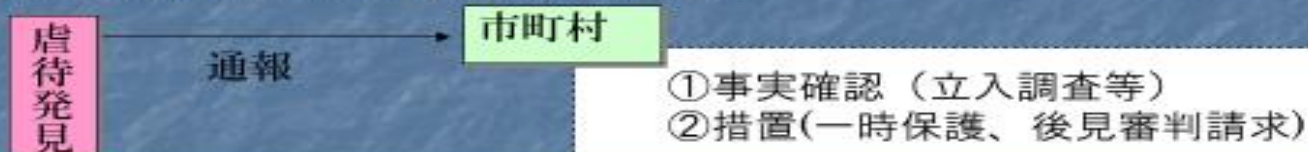
## 養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者

- 障害者を現に養護する者であって障害者福祉施設従事者等及び使用者以外のもの
- 身辺の世話や身体介助、金銭の管理などを行っている障害者の家族、親族、同居人等
- 同居していなくても、現に身辺の世話をしている親族・知人などが養護者に該当する場合がある
- 障害者自立支援法等に規定する「障害者福祉施設」又は「障害福祉サービス事業等」に係る業務に従事する者
- 障害者を雇用する事業主又は事業の経営担当者その他その事業の労働者に関する事項について事業主のために行為をする者

## 障害者虐待防止等のスキーム

### 養護者による障害者虐待

[市町村の責務]相談等、居室確保、連携確保



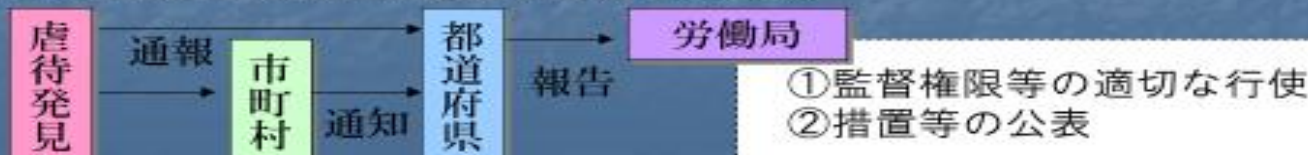
### 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待

[設置者等の責務]虐待防止のための措置の実施



### 使用者による障害者虐待

[事業主の責務]虐待防止等のための措置の実施



# 障害者虐待の種類

- ①身体的虐待：障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること。
- ②性的虐待：障害者にわいせつな行為をすること又は障害者をしてわいせつな行為をさせること。
- ③心理的虐待：障害者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は**不当な差別的な言動**その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。
- ④ 放棄・放任：障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、**他の利用者による①から③までに掲げる行為と同様の行為の放置**その他の障害者を養護すべき職務上の義務を著しく怠ること。
- ⑤ 経済的虐待：障害者の財産を不当に処分することその他障害者から不当に財産上の利益を得ること。

区 分	内 容 と 具 体 例
身体的虐待	<p>暴力によって身体に傷やあざ、痛みを与える行為。身体を縛り付けたり、過剰な投薬によって動きを抑制する行為。</p> <p><b>【具体的な例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平手打ちする ・殴る ・蹴る ・壁に叩きつける ・つねる ・無理やりに食べ物や飲み物を口にいれる</li> <li>・やけど ・打撲させる ・身体拘束(柱やベッドに縛り付ける、医療的必要性に基づかない投薬によって動きを抑制する、ミトンやつなぎ服を着せる、部屋に閉じ込める、施設側の管理の都合で睡眠薬等を服用させる等)</li> </ul>
性的虐待	<p>性的な行為やその強要(表面上は同意しているように見えても、本心からの同意かどうかを見極める必要がある)</p> <p><b>【具体的な例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性行 ・性器への接触 ・性的行為を強要する ・裸にする ・キスする</li> <li>・本人の前でわいせつな言葉を発する ・わいせつな映像を見せる ・更衣やトイレ等の場面をのぞいたり映像や動画を撮影する</li> </ul>
心理的虐待	<p>脅し、侮辱などの言葉や態度、無視、嫌がらせ等によって精神的苦痛を与えること。</p> <p><b>【具体的な例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バカ」「あほ」等高齢者を侮辱する言葉を浴びせる ・怒鳴る ・ののしる ・悪口を言う ・仲間に入れない ・子ども扱いする ・人格をおとしめるような扱いをする ・話しているのに意図的に無視する</li> </ul>
放棄・放置	<p>食事や排泄、入浴、洗濯等身の世話や介助をしない、必要な福祉サービスや医療や教育を受けさせない等によって障害者の生活環境や身体・精神的状態を悪化、又は不当に保持しないこと。</p> <p><b>【具体的な例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や水分を十分に与えない ・食事の著しい偏りによって栄養状態が悪化・あまり入浴させない ・汚れた服を着させ続ける ・排泄の介助をしない ・髪や爪が伸び放題 ・室内の掃除をしない・劣悪な住環境の中で生活させる ・病気やけがをしても受診させない・必要な福祉サービスを受けさせない・同居人による身体的虐待や性的虐待、心理的虐待を放置する</li> </ul>
経済的虐待	<p>本人の同意なしに(だます等して)財産や年金、賃金を使ったり勝手に運用し、本人が希望する金銭の使用を理由なく制限すること。</p> <p><b>【具体的な例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年金や賃金を渡さない ・本人の同意なしに財産や預貯金分を処分・運用する ・日常生活に必要な金銭を渡さない・使わせない ・本人の同意なしに年金等を管理して渡さない。</li> </ul>

# 虐待行為と刑法

虐待行為は、刑事罰の対象になる場合があります。

虐待行為の種類	該当する刑法の例
① 身体的虐待	刑法第199条殺人罪、第204条傷害罪、第208条暴行罪、 220条逮捕監禁罪 第
② 性的虐待	刑法第176条強制わいせつ罪、第177条強姦罪、 第178条準強制わいせつ、準強姦罪
③ 心理的虐待	刑法第222条脅迫罪、第223条強要罪、第230条名誉毀損罪、 第231条侮辱罪
④ 放棄・放置	刑法第218条保護責任者遺棄罪
⑤ 経済的虐待	刑法第235条窃盗罪、第246条詐欺罪、第249条恐喝罪、 第252条横領罪

これまでの虐待事案においても、虐待した要介護施設等の職員が警察によって逮捕、送検された事案が複数起きています。

令和3年度障害福祉サービス等報酬改定において以下のように示された  
障害者虐待防止の更なる推進、身体拘束等の適正化の推進。これらの内容は、運営基準にも盛り込まれ、  
全ての施設・事所が対応する必要がある。

- 職員への研修実施（義務化）
- 虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会を設置するとともに、委員会での検討結果を職員に周知徹底する（義務化（新規））
- 虐待の防止等のための責任者の設置（義務化）虐待防止委員会に求められる役割は、虐待の未然防止や虐待事案発生時の検証や再発防止策の検討等である

令和3年4月から努力義務化、令和4年4月から義務化する。訪問系サービスについては、従前身体拘束等に関する規定がないため①から④を追加。①については、令和3年4月から義務化・②から④については、令和3年4月から努力義務化、令和4年4月から義務化する。

- ① 身体拘束等を行う場合には、その態様及び 時間、その際の利用者の心身の状況並びに 緊急やむを得ない理由その他必要な事項を 記録すること。
- ② 身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を定期的に開催するとともに、その結果について、職員に周知徹底を図ること。
- ③ 身体拘束等の適正化のための指針を整備すること。
- ④ 職員に対し、身体拘束等の適正化のための 研修を定期的に実施すること。

# 抑制・拘束は尊厳を侵害

- 障害の有無に関わらず全ての人には自分自身の意思で自由に行動し生活する権利がある。一方で、身体拘束とは、障害者の意思にかかわらず、その人の身体的・物理的な自由を奪い、行動を抑制または制限し、障害者の能力や権利を奪うことにつながる行為である。
- 障害者虐待防止法では、「正当な理由なく障害者の身体を拘束すること」は身体的虐待に該当する行為とされている。身体拘束は、関節の拘縮、筋力や心肺機能等、身体的能力の低下、褥瘡の発生等の身体的弊害、意思に反して行動を抑制されることによる不安や怒り、あきらめ、屈辱、苦痛といった精神的な弊害をもたらす。
- このことは、家族にも大きな精神的苦痛となるとともに、職員等は問題解決の手段として安易に身体拘束に頼るようになり、モチベーションや支援技術の低下を招く等の悪循環を引き起こす。そのため、身体拘束の廃止は、本人の尊厳を回復し、支援の質が低下する悪循環を止める、虐待防止において欠くことのできない取組といえます。
- 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設等の人員、設備及び運営に関する基準」等には、緊急やむを得ない場合を除き身体拘束等を行ってはならないとされている。



# 緊急やむを得ない場合

- 以下の全てを満たすことが必要。
- ① 切迫性 利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いことが要件となる。
- ② 非代替性 身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないことが要件となる。
- ③ 一時性 身体拘束その他の行動制限が一時的であることが要件となる。
- さらに、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければならないとされている。

# 虐待につながる関わり

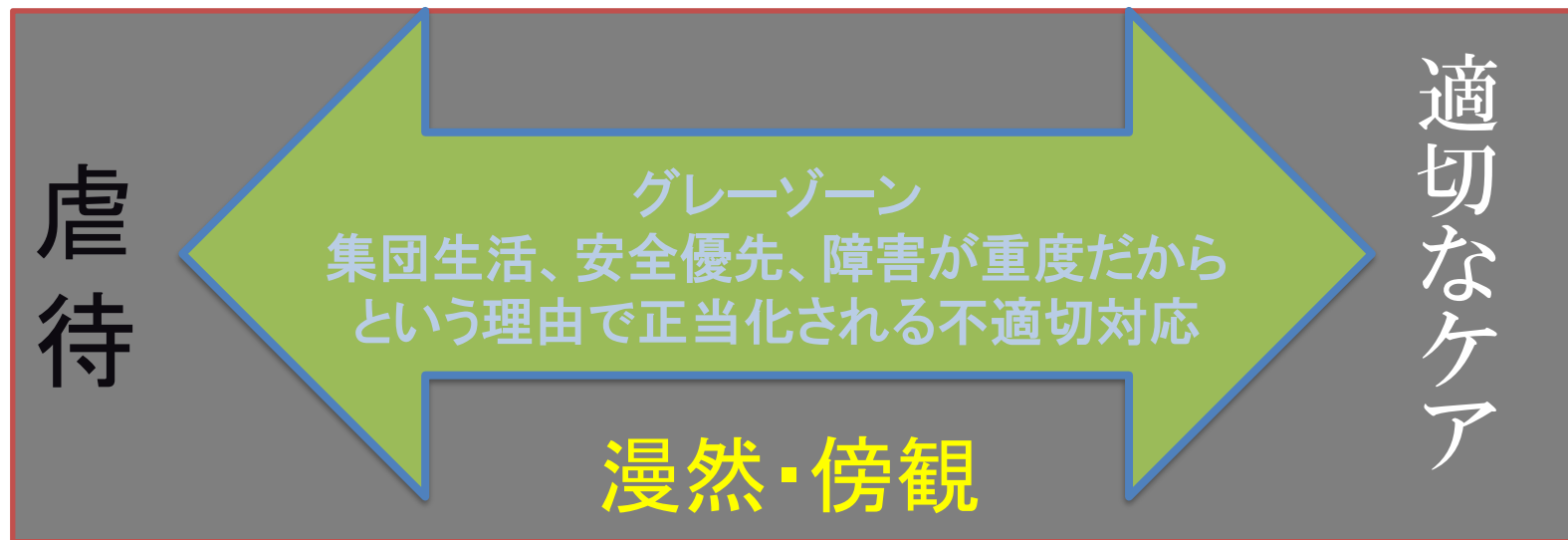
- 障がい特性を理解しないまま、衝動行動の表面だけを捉えて、安易に自由の制限を行うと虐待に当たり得ることになる。
- **漫然**：はっきりした目的や意識もなく、経験的、その場しのぎで支援を行うこと。
- 施設のベテラン職員Aが利用者に暴言や威圧的な態度が常態化していた。新人職員Bが何度も目撃したが適切な防止措置を取らなかった。
- **傍観**：傍観者は虐待者。

# 心理的虐待（以下の言動は瞬時に行われ、 周りの職員が気づいている場合が多い）

- 乱暴な言葉遣い：怒鳴る、罵る
- 罰として「外出させない」「食事を抜く」などの脅迫
- 子ども扱いする
- 他の利用者と差別的な取り扱い
- 利用者の要求を故意に無視
- 威圧的な態度
- 冷たい、侮辱した視線
- 舌打ち、ためいき、目線を合わせてニヤツとする

# 虐待と不適切ケア（グレーゾーン）

- ・ 不適切ケアに気づくこと（個人・チーム・組織）
- ・ 不適切なケアを意識し、説明責任を果たすこと
- ・ 法律の定義に当てはまる虐待の客観的有無が重要



# 「病気・障害・問題」ではなく、同じ人間としての 「生きる苦悩」に目を向けること

- ・ バザーリア：「病気ではなく、苦悩が存在するのです。その苦悩に新たな解決を見出すことが重要なのです。・・・彼と私が、彼の＜病気＞ではなく、彼の苦悩の問題に共同してかかわるとき、彼と私との関係、彼と他者との関係も変化してきます。そこから抑圧への願望もなくなり、現実の問題が明るみに出てきます。この問題は自らの問題であるばかりではなく、家族の問題でもあり、あらゆる他者の問題でもあるのです。」

(出典:ジル・シュミット『自由こそ治療だ』社会評論社、p69)

# 指導 ⇒ 援助 ⇒ 支援

- 支援を英語では「サポートを行う」
  - 支援者は「サポーター」、サッカーでは12番目の選手、しかし中心はピッチに立つ選手、パワーを信じている
  - ホームを創る、アウェーをつくるな！
- 
- 今日集まっている皆さんは、かけがえのない区民の尊厳、生命、生活を護っていく要（かなめ）であり「しかたがない」を言わない支援者となる。